

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2272 号

日本の大都市圏におけるこころの健康に関する疫学調査研究—WHO「世界精神保健プロジェクト」—

(Epidemiologic study of mental health in a metropolitan area of Japan—WHO World Mental Health Survey Initiative—)

坂上 祐樹 (さかがみ ゆうき)

博士 (医学)

論文内容の要旨

1. 目的

世界保健機構 (WHO) による世界精神保健プロジェクト (World Mental Health; WMH) の一環として、国内 11 地域で行われた精神疾患を含むこころの健康問題に関する疫学調査のうち、神奈川県 Y 市で実施した調査の結果をもとに、我が国の大都市圏における精神保健の実態を明らかにする。

2. 対象・方法

対象は Y 市 I 区在住の 20 歳以上の男女 1010 名で、調査は調査員と対象者の 1 対 1 の面接調査とし、WMH 調査票 PC (CAPI) を使用した。調査期間は平成 17 年 11 月より 18 年 6 月である。

3. 結果

有効回答数は 377 名 (回答率は 40.9%) であった。精神障害の生涯有病率は男女共に約 40%、12 カ月有病率は女性が男性の 2 倍であった。年齢層別では 20 歳代が最も高かった。障害個別に見ると、気分障害では大うつ病性障害の割合が最も高かった。自殺関連行動は男女ともにみられた。これまでにこころの健康に関して精神科医に受診・相談した者は約 4% であった。

4. 考察・結論

結果については、これまでの国内外の研究結果と同じような傾向であった。また、大都市圏においても、精神科医と精神科医以外の医師を受診した者の割合に大きな差はなく、医療面からの対応では精神科医以外の医師の役割の重要性が示された。